

第 11 回 安曇野総合技術新校(仮称)再編実施計画懇話会まとめ

日 時	令和8年7月16日（木）午後5時30分から午後7時		
場 所	豊科公民館 2階 大会議室（安曇野市豊科 4289-1）		
出 席 （敬称略）	渡辺 守、橋渡 勝也、山崎 晃、高嶋 雅俊（代理）、宇留賀 勝巳（代理）、傳刀 勇 村松 浩幸、斉藤 岳雄、石井 克則、草間 英樹（代理）山口 陽輔（代理）、笠井 明 山崎 完好、布山 則男（代理）、林 明彦、都築 久美子、栗田 美子、下屋 春香（代理） 原田 邦彦、高山 俊彦、佐藤 ふわり、清水 廉、武藤 穰、今溝 秀雄、浅井 聖南 西山 揺渚、三宅 浩一、川上 忠志、曾根原 宏紀、原田 大夢、江尻 一麻、西山 浩介 （以上 32 名）		
欠 席 （敬称略）	宮澤 達、深澤 大輔、宮崎 鉄雄、小松 公平 山岡 勝則（以上 5 名）	傍聴	会場 16 名、報道 3 社
事務局	南安曇農業高校	本山教頭、赤沼教諭、今溝教諭、上松教諭、都筑教諭、矢野教諭	
	穂高商業高校	原教頭、有賀教諭、川上教諭、木村教諭、鈴木教諭、相馬教諭	
	池田工業高校	山口教頭（全）、井貫教頭（定）、西山教諭、佐藤教諭、松井教諭、水上教諭	
	県教育委員会	井出室長、柳沢主幹指導主事、楯主任指導主事、望月主任指導主事 宮沢指導主事	
会議事項	（１）第 10 回安曇野総合技術新校（仮称）再編実施計画懇話会まとめ （２）再編実施基本計画策定に向けて （３）新校の学びのイメージに係る意見交換		
当日資料	第 11 回安曇野総合技術新校（仮称）再編実施計画懇話会資料		

主な内容

会議事項

- (1) 第 10 回安曇野総合技術新校（仮称）再編実施計画懇話会まとめ【質問、意見なし】
○懇話会まとめの公開を早めるため、懇話会終了後、メールにて構成員へ送付し、内容確認および了承を得たうえで、県ホームページに掲載する予定。【質問、意見なし】
- (2) 再編実施基本計画策定に向けて
○懇話会のこれまでの経過および今後の流れについて説明。【質問、意見なし】
- (3) 新校の学びのイメージに係る意見交換
○学びのイメージ図および修正箇所について提示【質問、意見は次回】
・「目指す学校像」内『M I R A I』のアルファベットに意味を持たせることを提案。
M (Mastery/習熟・達成感)、I (Innovation/革新・創造)、R (Respect/尊重・思いやり)、
A (Achievement/達成・成功体験)、I (Inclusion/多様性を受け入れる) とする。
・これまでの「育てたい生徒像」から生徒主体にした「目指す自分像」に変更し、それに伴う具体的な文言修正案を提案。
○学科共通の活動・取組み・仕組みに対するグループワーク。

【グループワークまとめ】

[A グループ]

- ・鶏を例に「課題研究」で学科連携し、工業科が鶏小屋を建て、農業科で鶏を育て、商業科で鶏卵を使った商品を企画・販売するような活動ができないか。
- ・地域と連携した安曇野ブランド商品を販売することができる場所があるといい。
- ・中学生で学科を選択して入学することは難しいのではないかという話がある。くくり募集にしておき、1 年次に農工商の学びを体験したうえで学科選択をする形態はどうか。
- ・専門学科の学び以外に、他学科の科目も選択できるような仕組みがあるといい。
- ・「地域が第 2 の教室」として、地域に出て学ぶことができるような学校にしていきたい。

[B グループ]

- ・1 年次に 3 学科の学びを体験できるといい。
- ・3 年次に科目選択によって他学科の学習ができるといい。
- ・3 年次に学科相互にコラボレーションできる連携授業があるといい。
- ・地域に出て学ぶことは、コミュニケーション能力の育成にもつながる。地域を積極的に利用しながら地域からも学ぶことのできる学校にしてほしい。

[C グループ]

- ・厳しい世の中において、思考したり判断したりすることも難しい状況もあるが、子どもたちの目線に立ち、生徒に寄り添うことを大切にすることを確認した。

- ・基礎学力を大切にし、そのうえで専門性の深化に向けて「問い続ける」ことが重要。
- ・専門性を高めることが大切。
- ・「課題研究」で3学科それぞれの特性を生かした活動として、どのような取り組みができるか考えたい。
- ・地域をフィールドにした学びを充実させることは非認知能力の育成につながる。
- ・土、水、命から学ぶことを基本に保護者・地域・外部・教職員で関わり、生徒を育てられるといい。
- ・普通科にない魅力のある学校にしていきたい。

[Dグループ]

- ・3学科がチームで学ぶことも、3学科それぞれに学びを充実させることもどちらも重要。
- ・非認知能力の観点では、PBL (Project Based Learning/プロジェクト学習)等を通して失敗体験をすることも重要ではないか。
- ・地域との連携や地域で学校を支えていくという考え方が重要という話もあるが、地域の方をお願いばかりにならないようにすること、企業の負担にならないようにすることや持続可能なものでなければならない。
- ・学科の学びを連携させる必要がある一方、それぞれの学科の専門性を高めるといった相反する部分の課題をどう解決するか。カリキュラムの面でも課題はある。
- ・本当に専門的なことは上級学校で学び、高校での専門性の解釈を変えるという考え方もある。
- ・総合技術高校には普通科にない魅力が必ずある。中学生に総合技術高校の魅力を伝え、中学生が入学したいと思うような学校にしたい。

[Eグループ]

- ・安曇野新校ができることにより、生徒数が増え、クラブ活動や学校行事、研究発表やアイデアなどメリットが多分にある。
- ・3学科があり、自分や自分の学科だけでは解決できない課題を他学科に投げ掛け、みんなで解決することができるのはメリット。
- ・今後、更にAIやITが進化する中で、3学科の学びをどのように進めるかを考えなければならない。
- ・商業科をベースとした様々なカリキュラムを組んでみると面白いのではないかと。特に“地域人教育”に取り組んでいるが、地域には経験や知識・技術をもった多くの人がいるので、そのような方々や地域から学ぶということが重要ではないか。
- ・様々なことに取り組むにあたり、各学科の多様な視点で物事を見ることが大切。
- ・安曇野に限定せず、もっと大きなスケールで考えてもいい。
- ・“人”が一番大事であり、人をどう育てるかが第一だと思う。
- ・普通科にない様々な経験により、失敗したり成功したりする中で、自己肯定感が育まれる。
- ・生徒が夢中になれることが多くちりばめられた学校にしたい。

[座長まとめ]

〈学科連携〉

- ・学科をどのように連携させるか、学びの広さと専門性といった相反する課題をどのように両立させていくか、具体的なカリキュラムにどのように落とし込んでいくかがポイントになる。

〈地域をフィールドとした学び〉

- ・学校と地域が双方向に関わり合い、「地域が第2の教室」になるという視点を持つと面白い展開ができる。

〈非認知能力の育成〉

- ・学科の学びを考える前提として、生徒たちの目線に立ち、どのような生徒を育てるかというビジョンが必要。

〈全体〉

- ・上記3観点は、それぞれが独立したものではなく、相互に関わり合いながら具体的な学びを作っていくことで形作られる。

【事務局より】

- ・アルファベットの『MIRAI』に対する意味を加えたこと、修正した「目指す自分像」に関するご意見をいただく時間がなかったため、改めて次回ご意見をいただきたい。

その他

【次回懇話会】

- ・日時 未定
- ・内容 未定